

玉来川に隣接する竹の子ひろばにおけるカフェ設置時の利用目的と滞在時間の変化に関する研究

日本文理大学 学生会員 ○岩川 志音
正会員 中西 章敦

1.はじめに

かわまちづくりとは、河川空間とまち空間が融合した、良好な空間形成を目指す取り組みであり、かわづくりとまちづくりが一体的に進められている。国土交通省は平成21年に「かわまちづくり支援制度」を創設し、全国 244 箇所でかわまちづくりが行われている。大分県竹田市を流下する玉来川もそのひとつであり、現在改修工事が進められている。

玉来川に隣接する竹の子ひろばは竹田市でも多くの子どもが利用しており、竹田市だけでなく市外からも多くの利用があり、玉来川かわまちづくりが完成すれば相乗効果が期待される。しかし玉来川かわまちづくりワーキング部会が行った週末の滞在時間に関するアンケート結果では、利用客の多くは滞在時間が1時間から1時間30分ほどとあまり長く滞在していない²⁾ことが明らかになっている(図-1)。アンケートの自由記述では座る場所が少ないことや、子連れ利用者である保護者の目線から大人が長時間滞在できる利用目的がないなどの回答があった。

本研究では、玉来川かわまちづくり広場と竹の子ひろばの総合的利活用促進のため、アンケート調査の要望にあった、竹の子ひろば内の座る場所や保護者である大人を対象とした利用目的を創出することで利用者の滞在時間と満足度の変化を明らかにすることが目的である。

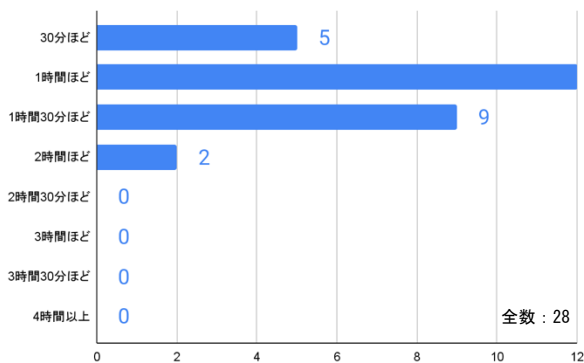


図-1 週末の竹の子ひろば利用者の滞在時間

2.研究対象とするフィールドと研究方法

研究対象地は大分県竹田市玉来に位置する竹の子ひろばとする(図-2)。竹の子ひろばは大野川水系の一級河川である玉来川のかわまちづくり事業区間に隣接する総面積約 3,100 平方メートルの地域児童公園である。周辺にはコンサートや講演会などに対応した多目的ホールをもつイベント地域交流拠点の竹田市総合文化ホールグランツたけたも隣接している。竹田市総合文化ホールグランツたけたは、2012年7月の九州北部豪雨災害による玉来川の洪水被害で被災した竹田市文化会館を新設したものである。

研究対象期間は10月29,30日の週末2日間とし、同期間に、竹の子ひろば内にカフェを模して座る場所として利用できるキャンプチェアを10脚設置、大人を対象とした利用目的としてテントを設置し飲食物や野菜の販売、キャンドル作りの体験ブースを設置した。竹の子ひろばの利用客に、滞在時間や玉来川かわまちづくりにおける竹の子ひろばおよびかわまちづくりで建設される予定の河川空間への要望についてアンケート調査を実施した。回収したアンケート調査の結果から、カフェを設置した際の利用者の滞在時間を明らかにした。自由記述についてはテキストマイニングを行い、竹の子ひろばおよび玉来川かわまちづくりへの要望を明らかにした。テキストマイニングにはKH Coder³⁾を用いた。



図-2 一級河川大野川水系玉来川と竹の子ひろば

3.結果と考察

カフェ設置時の竹の子ひろばの滞在時間を図-3 に示す。カフェがない場合は30分ほどから2時間ほどまででそれ以上の長時間の利用の回答はなかったが、カフェを設置した場合には、2時間以上の利用の回答もあり、最長では4時間以上の利用確認された。

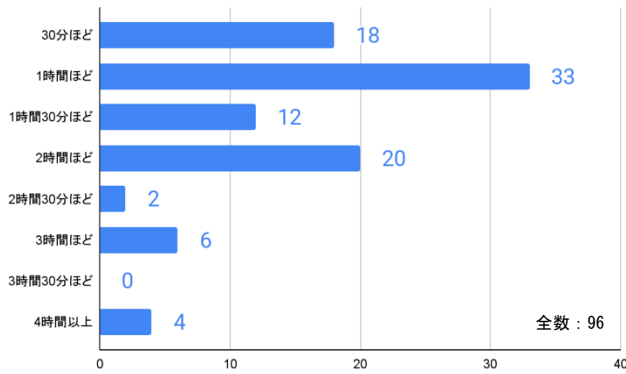


図-3 カフェ設置時の竹の子ひろば利用者の滞在時間

滞在の利用目的についての結果を図-4 に示す。回答された項目では、保護者の回答が多かったため、子供を遊ばせるためが最も多かったが、カフェを利用するためという回答も多くあがり、座ることや買い物等カフェそのものも目的として認識されている。

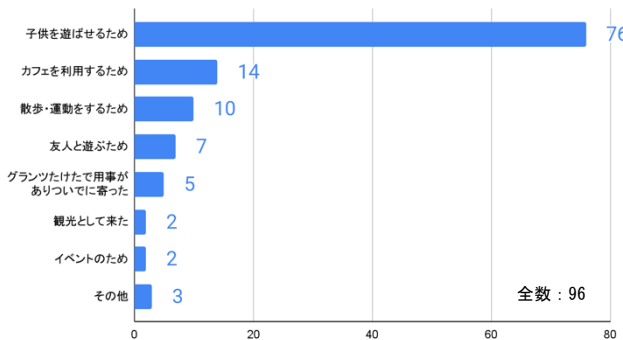


図-4 竹の子ひろば利用目的

玉来川のかわまちづくりにおける竹の子ひろばおよび河川空間への要望は自由記述で回収した結果についてテキストマイニングを実施し得た頻出語句、名詞、サ変名詞、形容動詞の上位10単語を表-1に示す。これら頻出語句の結果から、竹の子ひろばの利用者は、玉来川のかわまちづくりに対しても、今回のようなカフェや休憩できるスペースとして利用したいと考えていることがわかる。安全・気軽に過ごせる場所も求められていた。

表-1 各頻出単語上位10単語

名詞	サ変名詞	形容動詞
カフェ	19	利用 10
スペース	14	休憩 6
子供	11	施設 6
場所	9	安心 3
大人	9	出店 3
イベント	7	食事 3
日陰	7	販売 3
広場	6	飲食 2
公園	5	開催 2
遊具	5	散歩 2
		安全 3
		気軽 2
		自然 2
		お洒落 1
		キレイ 1
		十分 1
		素敵 1
		多め 1
		大好き 1
		便利 1

カフェ設置時の竹の子ひろばの方が平常時と比べ、利用者の滞在時間が伸びており、利用目的にもあげられているとおりカフェそのものが影響していると考えられる。玉来川のかわまちづくりにおける竹の子ひろばおよび河川空間への要望のアンケート結果では、カフェや休憩するためのスペースが欲しいという回答が多く、今回のカフェの設置は竹の子ひろば利用者の満足度を向上させたと考えられる。

4.結論と今後の課題

本研究では、竹の子ひろばに座る場所や大人を対象とした利用目的を創出すると滞在時間が長くなることが明らかになった。

今回の実験では2日間のみ限定開催であったが、今後の課題として常時カフェを行った場合や平日でも滞在時間が伸びるかという内容が考えられる。

謝辞

本研究を取り組むにあたり、玉来川かわまちづくりワーキング部会の宮崎慎也様、安倍美緒様には、カフェイベントの開催、アンケート調査にご協力いただきました。ここに記して感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課：かわまちづくり計画策定の手引き，第1版，p.5，2020.3
- 2) 宮崎慎也：竹の子ひろば滞在時間に関するアンケート調査，玉来川かわまちづくりワーキング部会，2022
- 3) 樋口耕一：社会調査のための計量テキスト分析 内容分析の継承と発展を目指して，ナカニシヤ出版，2014.